

2013年10月4日(金) 大宮アルディージャ サポーターズミーティング

司会：皆さん、こんばんは。本日はリーグ戦の前日、そして平日の金曜日の夜というお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただ今から、大宮アルディージャ サポーターズミーティングを始めさせていただきます。本日、司会を務めさせていただきます、大宮アルディージャ事業本部広報グループの小沼と申します。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに、本ミーティングの円滑な進行のために、注意事項を何点かご説明させていただきます。まず、本サポーターズミーティングは2時間を予定しております。休憩時間は取らずに進めさせていただきますので、お手洗いについては、会中でも構いませんので、会場後方のトイレの方をご使用いただきますよう、お願いいたします。

次に、カメラ、携帯電話などによる撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。また、場内は禁煙となっております。本日の議事録は後日、近日中にクラブ公式サイトで掲載させていただきます。よろしく願いいたします。

また、事前にクラブ公式サイトでお知らせさせていただいておりますが、本日、報道関係の皆さまもいらっしゃいますので、あらかじめご了承ください。

また、本日、質疑応答を行わせていただきますが、質疑応答の際は、ご指名させていただいた方にマイクをお持ちいたしますので、マイクが届いてからご質問いただきますよう、よろしく願いいたします。以上、皆さまには進行にご協力いただきますよう、どうぞよろしく願います。

長くなりましたが、まずはじめに、大宮アルディージャ代表取締役社長鈴木茂よりご挨拶をさせていただきます。

1. ご挨拶

鈴木：改めまして、大宮アルディージャの鈴木です。平日の金曜日、ましてや小雨交じりの悪天候の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

大宮アルディージャ、1月に新体制でスタートし、チーム結成45年、アルディージャとして15年目のシーズンをスタートし、春先の好調な試合を続けていた中、夏以降、皆様のご期待に沿えるような戦いができず、また、納得していただけるような成績を残せなく、まず初めにその点についてお詫びを申し上げたいと思います。

本日は、特に7月以降、メッセージボックス等を含めて、ファン・サポーターの皆さまからいろんな意見をいただいております。それに対しまして大宮アルディージャがオープンに話をさせていただくということで、こういう機会を設けさせていただきました。ホームページやマスメディア等でいろんな発信はし続けてきたつもりではおりますが、改めて皆さまの意見に対して真摯にクラブの総意としてお答えするというので、このサポーターズミーティングを開催させていただきました。ぜひ皆さんの忌憚のないご意見をお話ししていただいて、アルディージャのクラブとしての意見なり、考え方をお伝えしたいと思っております。短い時間になるかもしれませんが、ぜひ皆さんのご意見をお聞かせ願いたいと思

ます。

司会：それでは、本日の進行についてご説明させていただきます。本日のサポーターズミーティングを迎えさせていただくに当たりまして、皆さまから事前にご質問を頂戴しました。お手元にごございます資料が皆さまからの事前質問集となっております。最終的に 63 名 86 通の事前質問をいただきました。たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

さて、皆さまからのご質問を一つひとつ拝見させていただいて、事前質問のご回答をさせていただくのですが、こちらのご質問を見させていただきまして、おおよそ 3 つのテーマにまとめさせていただきました。まず、1 つ目のテーマは、「監督交代の経緯について」と考えています。ベルデニック前監督の交代の理由、前監督へのクラブの評価、監督人事の継続性について、そして、小倉現監督のテクニカルダイレクターへの就任の経緯についてもご質問がありましたので、ご説明をさせていただきます。

2 つ目のテーマは、今シーズン残り 7 試合を戦っていく上で、「チームの現状をどう分析しているか、そして、今後の残り試合をどのように戦っていくか」について、ご説明させていただきます。

3 つ目のテーマは、「来季に向けて」のご質問も頂戴しております。こちらの議題の中で、クラブの責任について、また、来季に向けた監督人事や補強、チームの目指すサッカーについて、ご説明させていただきます。

改めまして 3 つのテーマを復唱させていただきますが、1 つ目は「監督交代の経緯について」、2 つ目は「現状の分析と残り試合の戦い方について」、そして、3 つ目の「来季について」のお話の中でクラブの責任などについてもご説明させていただく、そういった形にさせていただきますと思います。

以上を踏まえまして、本日のミーティングの進め方なのですが、当初のご案内では、最初にクラブから以上のような事前質問に対してのご回答をさせていただいた上で、質疑応答に入らせていただくという形だったのですが、今回のテーマについて、質疑応答を集中して行わせていただくために、先ほど申し上げた 3 つのテーマ毎にこちらから説明を差し上げて、その後に質疑応答をとらせていただくという形で、3 つのパートに分けて展開させていただきますと思うのですが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。よろしければ、もちろん 3 つに当てはまらない質問もあろうかと思しますので、全体の流れとしては一応そういった形で進めさせていただければと思います。

あともう 1 点、ご説明させてください。今回、チーム関連以外の質問もいただいております。ただ、今回、最初にご案内させていただいたように、チーム関連の質問に集中して回答をさせていただきたいので、チーム関連以外の質問については、別の機会にまたお話し合いをさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、事前質問の回答に入らせていただきたいと思えます。ゼネラルマネジャーの岡本武行よりご挨拶と、1 つ目のテーマである、「監督交代の経緯について」お話をさせていただきます。

2. テーマ1「監督交代の経緯について」

岡本：皆さんこんばんは。ゼネラルマネージャーの岡本です。まず初めに、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆さまには日頃より多大なるご声援をいただきまして、誠にありがとうございます。監督交代後、チームの成績が出てないということについて、大変申し訳なく思っております。

本日は、監督交代の経緯等を含めて話をさせていただければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

まず、監督交代の経緯ですが、昨年、苦しい状況の中でベルデニック監督に就任をしていただきました。最初の10試合については2勝2分6敗と非常に苦しい戦いが続きましたが、強化としても、前監督が日本を少し長い間離れていたということもあって、選手の特徴であったり、リーグの特徴、そういったところをサポートさせていただきました。そして、10試合、なかなか結果が出なかったというところで、選手も自信を無くしているところがありましたので、小倉ヘッドコーチを招聘して、選手と監督の間に入ってもらって、ベルデニック前監督をサポートしていただくことにいたしました。そして、選手補強では、ノヴァコヴィッチ選手、ズラタン選手、そして河本選手、その3名が加入することによって、チーム力を向上することを目指して戦ってきました。そして、皆様のご声援もありまして、何とかJ1に残留することが出来たというのが昨年でありました。

そして、今年については、昨年のサッカーを継続するというのをベースに、選手についても昨年の選手をベースに戦ってまいりますということで、スタートをいたしました。前期の13試合については、昨年のベースもあり、多い得点と少ない失点で快進撃を続けることが出来たと思っております。コーチや選手が、何とか結果を出さなきゃいけないということで、監督と一丸となって戦ってきたと思っております。

私の評価として、前監督とは定期的に話をしておりました。その中で、13節終了時点では、成績については首位ということで、これを継続して欲しいということをお話しました。しかし、その中で、得点、失点というところは、確かに得点が多く失点は少なかったのですが、被シュート数やシュート数というところでは、他の上位チームは、そういったところでも上位にいるのですが、大宮アルディージャについては下位の方にいたということで、そこら辺も含めて改善が必要ではないかという話はさせていただいたというのが実状です。

そして、13節終了後にキャンプがあって、後期に向けてというところの戦いになりますが、そのキャンプの中でもベルデニック前監督と密にコミュニケーションを取りまして、話をさせていただきました。その中でやはり夏場、7月、8月に11試合連戦があります。暑い中でどう戦っていくのかということも含めて、日本のサッカーというところも話をさせていただいたという経緯があります。そして、日本の特徴としては、相手チームの研究ですね。13節終わった時点で首位にはいるのですが、相手チームはその中断期間で強化をしてきて、大宮を研究してくるというところ、それをまた負かしていくためには、それ以上にチームとしてもステップアップすることが必要ではないかということで、ベルデニック前監督もそれについてはしっかり認識していただいたと思います。

そして、中断期間明け後、試合が始まった中で、最初1勝1分だったのですが、その後5連敗という形になりました。5連敗の中で一番懸念されていたところで、選手の自信が失

われたということがありました。それと戦術部分で徹底できなかつたところがありましたので、それも含めて話をしたところ、なかなか改善ができないと判断しまして、これ以上チーム状況を改善し向上することが難しいと判断して、ベルデニック前監督を交代することといたしました。私自身が招聘した監督であり、交代することについては非常に苦渋の決断ではありましたが、チームの勝利、チームが良くなるためにということを考えてときには、監督交代をすることが一番じゃないかと思って決断をいたしました。

一部では、選手が「練習がきつい」とかいうお話が出ておりましたが、それについては全くありません。どちらかという、選手については「もっとやらなきゃ」という危機感を持ってやっていたと思いますし、「もっともっとやらなければ厳しい」ということを思っていたと思います。そういったところを含めて、私の判断でベルデニック前監督の交代を決めさせていただいたというのが経緯でございます。

鈴木：私も岡本 GM と強化スタッフの話を受けて、最終的には私が監督交代を判断したといえますか、決断した訳です。私も記者会見のときにお話したのですが、今回の質問にもありますが、「一体感って何なの」という質問が来ていました。

実は、岡本 GM が言った通り、前監督が去年に就任してから、10 試合やって 2 勝 2 分 6 敗でした。浦和レッズ戦で引分けて、その時点で実は 17 位でした。残り 10 試合、17 位ですと降格してしまいますので、選手のモチベーションのために、クラブスタッフ含めて私も入って、9 月 5 日水曜日に全員で決起集会をやりました。その中で、選手たちに話をしたのが、これはビデオで上映したのですが、「仲間の絆を力に変えて」ということで、全員がまとまってやろうと。仲間イコール、私も仲間ですし、選手も仲間ですし、監督も仲間ですよ。「仲間の絆を力に変えて」というビデオを作って、それ以降 10 戦負けなし。選手の継続性含めて、今シーズンも大宮でやってくれる選手を継続して契約しようということと継続性を保って、21 戦負けなしの結果が出たんだろうなという判断をしました。

ただ、一体感ということ言うと、仲間を大事に、「仲間の絆を力に変えて」ということでずっとやってきてはいたのですが、結果は出ていたのですが、そういうところが少しずつ崩れてきていたというのが、最終的に私が決断した 1 つの理由です。一体感が崩れるというのはそういう意味です。

ただ、具体的にじゃあ、それって何なの、どういうことなのという話なんです、「CSR 上どうなの」「クラブとして社会に説明する責任があるんじゃないか」という質問も実は来ていますが、監督が辞めた現在、監督とクラブというのは契約で結ばれていて、契約が終わった今現在ではフェアではないと、私が今、いろんなことを言うこと自体はあまり、守秘義務も契約書の中には、お互い契約していた時のことについては漏らしてはならないという、これは契約上、普通どこにでも載ってるのですが、守秘義務もあり、かつ、結果をしっかりと残してくれた監督について個別に言及することは、私は控えたいと思っています。

ただ、先ほども何度も繰り返していますが、去年の秋から絆を力に変えて頑張っていこうということが崩れた。先ほど岡本 GM が言いましたが、選手がどうのとか、練習が辛いとか、そんなことではなくて、契約解除に至ったということです。

あとは CSR 上の問題ということが事前質問にありましたが、今の CSR というのは社会的説

明責任をどう持つかということなのですが、CSR の考え方というのは、2000 年前後にアメリカのエンロンであるとか、ワールドコムであるとかが不正経理、粉飾決算をやった。それを何で決算状況なんかを、株主なりお客さまにしっかり説明しないんだっていうのが、CSR の基本のところであって、その社会的責任、説明責任を負いなさいっていうのが CSR の基本的考え方だと、私は考えています。

私たちアルディージャとしては、確かに CSR の考え方は分かるのですが、会社の企業理念上から言えば、皆さんに説明が足りなかったのは確かに反省しています。でも、個別に、CSR 上の説明責任だからといって、すべて契約の中身まで含めて皆さんにお話しすることはできないということ、理解していただきたいと思います。

岡本：続きまして、テクニカルダイレクター就任経緯ということでお話をさせていただきます。

小倉さんについては、日本代表での経験であったり、選手の人脈や戦術というところで、非常に長けたものを持っていると思っております。そういった中で昨年からクラブとして、そういう人脈を含めて活用することが、クラブにとっても有益ではないかと考えており、小倉さんにはテクニカルダイレクターという立場をとっていただくことにしました。現在も監督という立場でいますが、テクニカルダイレクター兼務という形で、選手情報を含めてアドバイスをいただいているというのが現状であります。

小倉テクニカルダイレクター就任後、成績が落ちてきているという部分については、私自身も非常に責任を感じておりますし、その判断については、ベルデニック前監督をサポートするという事を含めて考えたことであります。

続きまして、監督人事の継続性というところについてお話をさせていただきます。

この何年かで何人かの監督が代わっていることについては、私自身、継続性というところは出来ていないということを感じております。ただ継続性が目的ではなくて、チームをいかに良くするかということが一番の目的だと思っています。そのためには一番にチーム強化というところを考えたときに、監督を続けることがいいか悪いかという判断でやらせていただいています。そういった中で、できれば長く監督をやっていただきたいというところはあるのですが、私のスタンスとしては、GM として安定してチームを強化することを考えたときに、どの監督が一番適正かというところで考えさせていただいているというのが現状です。

鈴木：皆さんのご意見の中に、私が社長就任時にやっぱり継続性が大事なんじゃないかということをお話したのですが、「その考え方は今どうなったんだ」というところがあります。継続性は大事です。でも、GM が今話した通り、継続性というのはチームを強くするため、結果を望むために、結果を出すために継続性が大事だということ、私は、社長着任時、3 年前に継続性が大事だろうということを考えました。当然今も継続性は大事です。ただ、継続性を大事にするだけに、結果が出ないとなれば、継続性って何なの、ということになると思いました。

実は、去年、鈴木淳氏からベルデニック前監督に代えるときも悩みました。継続性を大事にすればいいのか、それとも監督を代えればいいのか。でも、当時、去年の 5 月ですが、

ジュビロ磐田戦の無得点4失点、その前の試合も川崎に無得点2失点というような状況が続きました。これって継続性が大事なのかもしれないのですが、その時点で監督と選手とコーチ陣、スタッフも含めて考えたときに、継続性だけでこの状態を乗り切れるのかというところを考えました。やはり継続性だけではなくて、やっぱり結果を望む、結果を出すためには、当時、多分16位ぐらいだったと思うのですが、残留するためにはどうあるべきかということをしっかり考えた上で、ベルデニック前監督に代えさせていただきました。

結果、今年ベルデニック前監督を、また1年経って代えたわけですが、それについては先ほど言った理由で代えたということになります。基本的に継続性を私は今も大事だと思っています。選手の継続性については、去年から今年にかけては出来るだけ継続しようということをやっています。だから、そういう意味で継続性というのは保っているつもりです。ただ、結果が出ないとなると、やっぱりそこはクラブの責任者として、先ほど岡本GMが言いましたが、ベルデニック前監督を代えるときに、自分が呼んできた、選んだ監督を自分で切るわけなので、苦渋の決断をしたというのと同じで、それを承認した私も苦渋の決断をせざるを得なかったということで、理解していただきたいと思います。

司会：それでは、1つ目のテーマ、「監督交代の経緯について」の質疑応答に移らせていただきたいと思います。質問のある方は挙手にて、私の方でご指名をさせていただきますので、その後、マイクをお持ちいたしますので、マイクでご質問をお願いいたします。

それでは、ご質問のある方、挙手にてお願いいたします。

質問者1：質問をさせていただきます。よろしくお願ひします。5連敗の初めのころは、私の記憶が間違っていたら訂正してほしいんですが、ノヴァコヴィッチとかズラタンとかが怪我をし始めた頃だと理解しています。その怪我はすぐには回復しなくて、中断明けまで引っ張ってしまったような選手もいたと思っています。やはりズラタン、ノヴァコヴィッチは今の大宮には欠かせないフォワードだという風に思っていますが、それが欠けたときに、その戦力ダウンというのを、考慮してでもズデンコに責任を取らせるべきだったんでしょうか。というのが1つです。

もう1つは、小倉さんをズデンコのサポートとして去年、招聘したということについては非常に理解できたし、結果が非常に良かったわけですが、今年、チームの具合が悪くなったときに、ダイレクターに就任してもらったときに、ピッチでの役割ってというのは、私は減ったように見えました。サポートが目的だとすれば、どうして小倉さんをピッチから離れたんでしょうか。その2つを教えてください。

司会：ありがとうございます。それでは、岡本GM、よろしくお願ひします。

岡本：まず、最初のズラタン、ノヴァコヴィッチが怪我した状態で、ということですが、先ほどお話しさせていただいた中断期間ということで、他のチームも研究をします。ズラタン、ノヴァコヴィッチについては、いるのといないのでは存在というものが大きいというのは分かります。ただ、守備のところで言うと、前半あれだけオフサイドを取れたのが後半取れなくなってきていたり、あと、ボールに対してプレッシャーをかけるのに対して、

オーガナイズを変えてくる。相手がなるべくプレッシャーを受けないように変えてきたときの対応というところが、後期は必要になってきたのかなと感じておりました。ですから、前期あれだけオフサイドを1試合当たり多く取れたのが、中断期間明けには相手が研究してきて減っている。ズラタン、ノヴァコヴィッチというところでは、存在感というのは大きいと思っておりますが、そういった中で戦術的な部分も含めて改善していく。逆にいないのであれば、そこがもっともっと改善するという必要になってくると感じておりました。

そういった中で、次のアルディージャとしてのステップというところで、ベースは築き上げていただいたということは非常に感謝しておりますが、その次に向かうに当たっては、やはり監督交代をするということがいいのではないかと考えました。

2つ目の小倉監督のテクニカルダイレクターというところでは、昨年、小倉監督がコーチとして入ったときに、日本人選手や外国籍選手の間に入ってベルデニック前監督をサポートしてきました。前期を戦う中で、小倉監督の存在というのは非常に大きくなってきていると感じておりました。

そういった中でベルデニック前監督を監督としてという体制をしっかりと作っていくためには、小倉監督がテクニカルダイレクターという形になってズデンコをサポートするような形が、一番可能性を高めることだと考えて、小倉監督をテクニカルダイレクターにいたしました。

質問者 2：単純な質問ですが、一体感を持って結果を出してきたと。今現状は、監督が代わる前と今と、どうですか。

岡本：ご質問ありがとうございます。成績に反映されていないというところでは、結果は出てないところは、まだまだ足りてないのかと感じております。ただ、その一体感というところでお話をさせていただきますと、ベースというところをもっともっと上げていかなきゃいけない中で、今、選手は非常に苦しい中で何とか勝利のためにというところでやってもらっています。そういったところも含めて、チームが向上するというところをこれから表現していくためには、ちょっと時間が必要なのかと思っています。ただ、その時間というのは最初から分かっていたことであって、それはもう結果が出てないということは私の責任だと思っております。

質問者 2：単純に質問なんですけど、私も営業をやっているのですが、結果が良ければ悪かった人間関係も良くなってくるし、結果次第で良かった人間関係も悪くなったりすることって結構多いです。チームの中でも、全体の一体感なのか、一部の人間のいざこざだとか、そういうものがかえってチームにマイナスするんじゃないかと。あんまり一体感、一体感と、一体感が無ければ結果が出ないのかと、そういう精神論は、気持ちではちょっと理解出来ないのですが。

鈴木：そういう意味で言いますと、ノヴァコヴィッチは常に言ってくれてますし、ニールもそう、外国籍選手たちが言ってくれるのですが「チームにとって可能性がある。今の現

状でずっと負けることはなくて、頑張れば勝てる状況、チームなんだから、やっぱり頑張るんだ」と。ニールはやはりタイトルを取れるチームだと思っている。ノヴァコヴィッチは、「今結果が出ないのは恥ずかしいけど、そんなチームではないんだ」ということはずっと言い続けてくれていて、もう少し言うと、春の記者会見のときに、高橋 祥平は「私は優勝するために来ました」と。青木 拓矢は色んなところから、皆さん噂は聞いていたかもしれませんが、オファーがありましたけど、でも彼は大宮に残ると。大宮に残って ACL を目指すんだっていう思いでやってくれてるんですね。それは今も同じなんで、そういう意味での一体感は、確かに春はあって、今は若干落ちていると思います。でも、ノヴァコヴィッチ、ニールもそうですし、青木もそうですし、高橋 祥平にしても、その気持ちを失った訳ではないと思っています。おっしゃる通り、結果が出ないもんですから、出てないところもあるもんですから、やっぱりそれが前面に出ない。もう少し言うと、ああいう試合内容になっちゃったりするということかなという気がします。

実は今日、これもビデオは用意してるんですが、広島戦ですごい試合をやりましたよね。サポーターさんたちがあれだけしっかり皆さん応援してくれて、日本一すごく評価を受けてるサポーター、ファンだと私は思っています。選手に対してもそれを言っています。日本一すごく評価を受けてるサポーター、相手のチームに対してもリスペクトするようなサポーターというのはなかなか全国にいない。そういうサポーターに対して、選手として、もう少し言うと、私、社長ですけど、社長の私なりに、選手がどう報いるかと、喜んでもらえるかを常に考えなきゃだめだという。もう少し言うと、あの当時は本当に一体感があって、無心でやってたっていう気がしますよね。

今は、その無心さが若干欠けてるんだろうなと。だからもう 1 回そういう形にやっぱり戻る、戻るというか、私たちが、社長は社長で、戻るような、モチベーションの持たせ方をしているし、指導の強化のほうも、監督もそういうところに戻るようなことをやっている。戦術的にしっかり守るとか、そういうものは当然戦術的な問題はやってますが、それ以外でもやっぱりそういうことをもう 1 回思い出してもらおうようなことはやってるし、やらなきゃだめなんだろうなと。ただ、それですぐ結果が出るかっていうと、申し訳ございません、今出ていないので、申し訳ございません、信用してもらえないのですが。

質問者 2：わかりました。

司会：ありがとうございます。他にご質問ございますでしょうか。

質問者 3：よろしくお願ひします。今までの話を聞いて、率直に言うと、今まで聞いている話の繰り返しかなという気がしているので、折角こちらに来たのにちょっと残念かなという気がします。もう少し具体的なお話が聞ければと思います。お話の中で、鈴木社長の方で、一体感が崩れていったと、それで監督を出したというお話があったと思うんですけど、一体感が崩れたから監督が交代っていうのは、ちょっとかなり論理が飛躍しているなという気がしていて、あの当時の成績、それからそのタイミングというところを考えて、監督をいきなり交代するというのはすごい決断だなと思って、すごくびっくりしたんですけども、もう少しちょっと監督交代以外の方法はなかったのかなと。そういう形で考

えていかないと、また今後も同じような繰り返しになっちゃうんじゃないかなという気がして、その点について、反省という訳じゃないですけど、振り返りも踏まえて、現状をお聞き出来ればと思うんですけど。

鈴木：私に対する質問ということで私が回答させていただきます。

社長の立場での評価、監督の、あとは選手の契約含めて、社長の立場でどこまで踏み込むという言い方はおかしいんですが、どこまで自分がやるかというのはすごく難しいところがあると思っています。私、社長になって3年なんですけど、ずっとやってきていることは、例えば、今シーズン、来シーズンでもいいのですが、監督を誰にするか、選手採用、契約を誰にするかというのは、すべてGM、強化スタッフ、今日来てますが、古矢（強化部長）以下に任せています。私がやるのは会社の経営上、どれだけ選手人件費に使えるかという予算を決めます。例えば去年、公表されているので皆さんご存じだと思いますが、去年で言うと約17億が人件費です。その17億をどう使うかについては、GM、強化スタッフに任せています。その範囲であつたら、外国籍選手でも外国籍監督でも、どんな選手を取ってきてもいいよって、と言ってます。

でも、契約が締結したら、私が契約の当事者ですので、監督ともコミュニケーションを取ります。今日の質問の中にもあつたのですが「8月の時点で報告を聞くまで知らなかった、それおかしいじゃないか」みたいな質問がありました。でも、そのとき私はずっと海外出張で2週間、香港、韓国、マンチェスターなどに行っていたので、コミュニケーションを取れなかったのも、そういう状況になってしまったのですが、ずっとコミュニケーションは強化スタッフとは週に1回、間違いなくミーティングをやっていました。実は監督とも、監督には全権委任していますから、そんなにコミュニケーションは取りませんが「頑張れ。今調子悪いけどちゃんと信頼してるからやってくれよ」みたいなコミュニケーションをしっかりと取るようにしていました。実はベルデニック前監督とも何回か食事をしたりしていたのですが、今年も5月の仙台戦に初めて負けて、カップ戦でも2連敗の後、実は食事をしてます、2人で。それは何かって言うと、私は先ほど言いましたが、一体感が欠けたからって言い方をしていますが、個別の理由については先ほど言った通り言及はしませんが、私は契約の片方の当事者として、監督にこういうことをお願い、頑張ってください、とお願ひしました。

その時点でどうかというと、成績は1位でした。でも、私は社長の立場でそういう1対1の話を実はさせていただきました。結果、8月、ああいう形で監督を交代せざるを得なかったということです。

その中身について、何度も言いますが、個別にどういうことがあつたのか申し上げることは出来ません。守秘義務等ありますので、ベルデニック前監督にご迷惑掛ける訳にもいきませんし、ご迷惑という言い方はおかしいですが、言及は控えさせていただきます。

司会：いかがでしょうか。よろしいですか。すいません、次のテーマもございまして、質問はこちらのテーマであつとさせていただきます。

質問者4：すいません質問ですが、今何分ぐらい経つたんでしょうかね。我々後ろ振り返

ると、こんな一杯みんな駆けつけて来てくれてるんですが、何分経ちました？40分経つてますよね。今日我々がここに来たのは、こうやって、例えば10分（ぶ）のうち9分（ぶ）は社長とか岡本さんがしゃべって説明して、我々を説得されるみたいな感じで進めていただくのを期待しては、絶対来てないはずなんですよ。みんな言いたいことがあって、皆さんこれ（事前質問を）作っていただいたね、この意見とかこれにしたってね、私全部目をこちらに来て通しましたけれども、みんなそれぞれ思いがあって、いいことや、またこうして欲しいってことは、みんな気持ちが入ってるんですよ。で、今まで議事が進んできて、この調子で単に社長とか岡本さんの説明だけで終わらせたって感じで我々が帰ったときに、果たしてどうなんでしょうかね。納得します？する訳ないですよ。これ議事進行をされてる方も大変かと思えますけれども、もう少しその辺を考慮してですね、進めていただきたい。それと一言だけ、先々に言おうと思ったんですけども、言わしてください。私からの意見です。社長も岡本さんも、あえて名前出させてもらいますけれども、今までの説明は全部言い訳にしか我々聞こえてません。特に私は言い訳にしか聞けません。それと岡本さん、あなた、ごめんなさい、こういう言い方するつもりじゃなかったんですけど、ちょっと勢い乗っちゃってますんで、すいません。もっとデジタルに、この時代ですからね、シュート数が少ないとか、被シュート率が多いとかいう、そういう時代じゃないかという、今。我々サポーター、もうみんなアルディージャを愛してるが故に、一杯データ作って、それなりに、こうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないかということをお皆さんやって、考えておられるはずなんです。あまりにも抽象的すぎる。それじゃあ選手もついてきません。強化スタッフもついてこないでしょう、恐らく。アルディージャのクラブそのものも、このままじゃ崩壊しますよ。もっとプロらしくなってください、プロらしく。恥ずかしいですよ。こんな様のね、結果になって、こんな抽象的な話でね、我々を説得しようなんていう気持ちは無いかもしれませんが、そうとしか聞かない。それははっきり申し上げます。今後議事進行は、それを考慮して次に進めてください。あんまりしゃべらせないでください。我々にも皆さん、思ってること言わせてください。お願いします。そういうふうに水を向けてください、お願いします。

司会：貴重なご意見ありがとうございます。

岡本：本当に貴重なご意見ありがとうございます。私も強化をやってもう10年になります。そういう中で、本当に大宮アルディージャを強くしたいと思ってやってきました。そういつた中で監督交代であったり、それなりの成績を出してない、それについては非常に本当に申し訳なく思っております。ただ1つは、アルディージャを強くしたい、なんとかいい形にしたいという思いは、皆さんと同じ気持ちだと思っております。そういうところは理解していただければと。ただそれについては皆さん、私の態度であったり、そういうところで物足りないところもあると思います。しかしその中にはそういった思いはあるということ、もし少しでも分かっていたらと思っております。説明が不足で申し訳ありません。

司会：ありがとうございます。議事進行にもご指摘いただきましたので、参考にさせていただきます。

ただきたいと思います。

質問者 5：今日はこのような会を開いていただきましてありがとうございました。社長が冒頭におっしゃられたんですけど、ベルデニック監督、非常に有能で成績を残された監督だということでおっしゃいましたけれども。なぜその解任に至ったかというのが、いまだにはっきり分からないんですけれども。監督を解任する以外で、サポートをもうちょっとしていくということは考えられなかったんでしょうか。24番の質問になるんですけれども、私同じ話を聞いたんですが、ベルデニック監督がスロベニア人のコーチを招聘したいと言ったのを、チームの方から拒否されたというお話が、僕もこれ人づてなんで聞いたんですね。例えば結果をずっと残して、有能な監督とおっしゃいながら、一体感がないという理由で監督解任してしまった、サポートをしていくということを考えなかったのでしょうか。また今、来年の監督の人選も考えてると思いますけれども、ベルデニックさんを再任させるということは考えておられるんでしょうか。例えば J1 昇格のときに、三浦俊也さんが一度解任されて、復帰してまた J1 昇格果たしました。チームのことをよく分かってらした方でもありますし、そういう復帰してチーム作りをちゃんと一から最初からやるよりは、分かっている方がいらっしゃった方が、チームを作るのがしっかりできるんじゃないかというのも今考えましたし。ベルデニック監督、チームを本当によく作ってくれたと思います。正直言ってたった 5 連敗で解任してしまったのには、本当に惜しい監督だったと思います。5 連敗した後の試合でも、結果がこれではまずいんで、これからやり方変えてみるっていうお話をされていた、その途端に解任されてしまったので、その後、5 連敗の後の試合、結構期待はしてたんですね。そこでその先を見る前にいなくなってしまったので、サポーター的にはベルデニック監督の解任ってのは、誰も望んでなかったんじゃないかって思うわけですよ。いずれにしてもベルデニックさんを再任させる候補に、来年考えてたりっていうのはあるんでしょうか。その辺ちょっとお聞かせください。

司会：それでは質問のポイントとしては、ベルデニック前監督在任時のサポート、スロベニア人コーチも含めてのサポートについてと、再任の可能性ということによろしいでしょうか。岡本 GM、よろしくお願いします。

岡本：ご質問ありがとうございます。スロベニア人コーチの招聘というところなんですけど、ベルデニック前監督とは、昨シーズン終わった後に、来年の編成含めてというところは話し合いをしました。その中でコーチというところは、こちらの方に任せていただけるということで、スロベニア人コーチが欲しいというような話は具体的には出ておりませんでした。そういった中で私としては、前監督の強みであったり弱みがあると思いますんで、その中でしっかりサポートできるようなスタッフを揃えられればと思っておりました。前監督とは選手補強の話であったり、スタッフ編成についてというところで、話をさせていただいたというのはあります。

再任についてというところなんですけど、今のチーム状況を含めてそのタイミングというところなんですけど、ベストな監督を選択したいと思ってますんで、チーム状況をまずしっかり良くするというのと、その中で次というのを考えていければと思っております。

質問者 5：じゃあ候補には考えてない、来シーズン候補には考えるということでしょうか。

司会：岡本 GM いかがですか。

岡本：選手であったり監督というのは、常にリストアップをしているつもりです。やはりその中でチームの状況を一番良くするのは誰かというところを勘案して決定したいと思っていますので、選択肢というところで経験がある、S 級を持っているという方は、すべて入る感じになると思います。

質問者 6：すいません、「監督解任のお知らせ」という風にホームページに掲載されたときがあると思うんですけど、先ほども鈴木社長が一体感が崩れたって簡単におっしゃったんですけど、理由、原因、そういう何で崩れたとか、そういうことが詳しく分かんないと、次の監督の時とかも同じこと繰り返すと思うんですけど、そういうことは分かってるんですか。

鈴木：はい、ありがとうございます。何で崩れたかっていう理由は、申し訳ありません、私たちは分かっています。ただ公表出来ないだけです。申し訳ありません。それは何度も言うように、契約上の問題等がありまして、それはオープンに出来ないということで理解してもらいたいと思います。

質問者 6：要するに監督が原因ということですか。

鈴木：監督だけが原因と言うと、多分そうではないんだろうなという気がします、ある意味。チーム状況を一番良くするためには何がいいかという判断をしたということです、その時点で。結果を出すために何を一番やればいいのかということと言うと、やっぱり監督が 100%悪いとは、私は言えないんじゃないかと思います。ただ、じゃあ具体的な事情って何なんだということについては、控えさせていただきたいと思います。

岡本：すいません、先ほど一体感というところがあるんですが、私としては好調時というのは一体感含めて、チームの戦術というところが共有されていたとっております。そう言った中で、相手チームが研究してきて、大宮に対しての対策を打ってきて、そのときのステップを向かうにあたってというところで、連敗を重ねるうちにチーム戦術の共有というのが選手間の中で難しくなったのかなと感じております。前監督に引き続きという選択肢もあったと思いますが、私としてはそこで監督を変えて、立てなおしを図るということが、チームにとって一番いいんじゃないかと考えました。

司会：それでは申し訳ありませんが、こちらのテーマ、最後の質問とさせていただきます。

質問者 7：質問です。岡本さんがさっき言ってました、私が招聘した監督と。具体的にコミュニケーションを取るというのは、1 日何時間ぐらいコミュニケーション取ってたんですかね。ベルデニックさんと。

岡本：昨年はいつも試合が終わった後であったり、あと家に行ったり、毎日ほぼ 1 時間 2 時間、食事は何回かいたしましたので、そういった中でコミュニケーションを取らせていただきました。

質問者 7：わかりました。あと鈴木さんに聞きたいんですけど、2 週間出張していて分からなかったっておっしゃってましたよね。2 週間海外に行ったって、別にメールとかあるから分かるんじゃないですか。しかも親会社は NTT ですよ。

鈴木：それは決定的な解任に至った理由が、そういうことだということです。いろんな事象は、事象って言い方はおかしいのですが、一体感が保てなくなるような事象っていうのは、言及はしませんが色々ありました。でも決定的に、これはやっぱり先ほど岡本 GM の言っていた通り、岡本 GM は記者会見のときも言ったのですが、監督としての選手に対する影響力が損なわれて、このままだとチームの結果が出なくなる、解任のとき岡本 GM が言っているのですが、その決定的な事象が生じたのが、私が海外出張中だったと。したがって私は、当時マンチェスターに行っていたのですが、10 日間の予定で行ってましたが、3 日で戻ってきました。そして、色々な方と色々な話をして、最終的に判断をさせていただいたということです。

質問者 8：すいません、確認 1 点だけ、簡単に終わることなんで。

司会：じゃあ、一番後ろの方お願いします。

質問者 8：すいません、無理申し上げて申し訳ありません。先ほどの質問の方で、ベルデニック監督が昨年末にスロベニア人のコーチを呼んでほしいという要望があったのではないかというお話があったんですが。それともう 1 点、現在のコーチ陣の方がサボタージュをしたんじゃないかということ、スロベニアのマスコミのほうで、ホームページ、新聞に出て語られてるんですけども。それをご覧になったことがあるのかどうかということと、それに対して事実であるかないかということをお聞かせいただければと思うんですが。

司会：先ほどの 2 点に関して、見たことがあるかということと、事実についてのご質問ということですね。

鈴木：スロベニア人コーチの招聘と、あと日本人コーチがサボタージュしたんじゃないかという、その 2 つですね。あとそれが向こうのホームページに出てるけど、ホームページは見てますかという質問ですよ。

質問者 8 : はい、そうです。

岡本 : 事実についてはありません。私も先ほどお話しした通り、昨年末に話をした際に、スタッフというところは私に一任していただいたというのが現状です。それとコーチというところで、また誤解が生じるかもしれませんが、コーチはやはり勝つためにというところで、監督が一番ということは間違いなく分かっております。そういったレベルで、勝つためにというところと、やはり監督をサポートするというところは、怠っていなかったと思っております。ホームページについては、すみません、見ておりません。

鈴木 : ホームページがあるのは聞いていました。そこにそういう素材が載っているよ、ということは聞きました。自分では見てません。でもそのホームページで、ベルデニック前監督がそういうことを話したみたいなの、そういうことを言ったというのが、あるホームページに載ってて、その中にはそういうことが書いてある、ということは聞きました。だから先ほどの、言い方は失礼なんですけど、岡本 GM に「こういうふうに書いてあるけどどうなの」と聞いたら、先ほど言いました通りスロベニア人コーチの要請も無かったし、サボタージュということも無かったということで、私は岡本に確認をしています。それとまた補足になるのですが、解任の理由で、明確に申し上げられないのは申し訳ないのですが、理由は色々なことがあります。色々なことが一杯あって、その結果ということなんです。たった 1 つだけの理由でということではなくて、色々な事象がいっぱいあって、それが色々積み重なって、一体感が保てなくなったということで理解してもらいたいと思います。その 1 つひとつの事象は何なんだと、皆さん知りたいという気持ちは分かるのですが、これは申し訳ありません、言及は控えさせていただきたいと思います。

司会 : ご質問のご回答になっていたと思いますが、よろしいでしょうか。それでは 2 つ目のテーマに移らせていただきます。2 つ目のテーマとして、今シーズン残り 7 試合を戦っていく上で、チームの現状をどう分析しているか、そして今後の残り試合をどう戦っていくか、についてのご説明をさせていただきます。岡本 GM よろしくお願いします。